

令和6年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア蘇我第3教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。

この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/6/29~R7/7/9> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/6/29~7/9>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや 意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
個別療育の質の向上に関する取り組み	<p>各職員に担当児童を割り振り、児童の基本情報や目標などを記載したうえで、目標と照らし合わせながら日々の様子、支援内容などを児童別に記録しています。月に1回、担当者から児童の支援の振り返りを共有する場を設けています。1か月の支援の総括を行い、次回以降の支援に反映していきます。</p> <p>常に目標を意識しながら、一貫性のある支援を提供するための取り組みとなっています。また、作成したシートは、保護者との面談や関係機関との連携に活用します。</p> <p>担当児童制にすることにより、職員の児童への理解も深まると考えています。</p>	<p>現在は月に1回の共有となっていますが、運用が安定してきたら、週に1回など共有会の頻度を増やしていければと考えています。</p> <p>頻度を上げることで、軌道修正も早めに行うことができる見込みです。</p>
研修の充実	<p>各職員に担当児童を割り振り、児童の基本情報や目標などを記載したうえで、目標と照らし合わせながら日々の様子、支援内容などを児童別に記録しています。月に1回、担当者から児童の支援の振り返りを共有する場を設けています。1か月の支援の総括を行い、次回以降の支援に反映していきます。</p> <p>常に目標を意識しながら、一貫性のある支援を提供するための取り組みとなっています。また、作成したシートは、保護者との面談や関係機関との連携に活用します。</p> <p>担当児童制にすることにより、職員の児童への理解も深まると考えています。</p>	<p>現在は月に1回の共有となっていますが、運用が安定してきたら、週に1回など共有会の頻度を増やしていければと考えています。</p> <p>頻度を上げることで、軌道修正も早めに行うことができる見込みです。</p>
活動内容の多様さ	<p>毎月今までになかった活動を取り入れて、体験の多様化を図っています。プログラム予定表の作成時は、週や曜日によって活動内容に偏りが生じないようにしています。</p>	<p>理学療法士が常駐しているため、専門的な運動療育も定期的に取り入れます。</p>

弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
<p>児童が見通しをもって過ごすことができるような環境づくり</p>	<p>声かけのみでは、児童の自発的な行動を促すには限界があるため、イラストや写真などを用いながら、児童が取るべき行動が視覚的にわかりやすいような環境設定が必要と考えています。現在も児童の立つ場所に足跡のカードを置いたり、声の大きさ表を貼り出ししたりしていますが、まだ声かけするしかない状況が見られます。</p>	<p>教具作成担当の職員が主導し、必要な支援道具を検討・作成する時間を設けます。</p> <p>また、他教室にヘルプに行く職員には、ヘルプ先の教室の環境設定でよかったものを共有してもらい、蘇我第3教室で取り入れることができるか検討します。</p>
<p>サービス提供の品質基準(=事業ポリシー)の浸透と、それに沿った環境整備</p>	<p>事業ポリシーの浸透と実施が止まってしまっています。朝礼での事業ポリシーの読み合わせや、ポリシーに沿った環境整備の実施が必要な状況です。今までは事業ポリシー担当の職員が送迎表作成も担っていたため余裕がありませんでしたが、8月4日より担当業務を変更し、その職員の負担を減らすことができる見込みです。余裕が生まれたら、事業ポリシー担当が読み合わせや環境整備の実施を主導する予定です。</p>	<p>担当業務を調整し、事業ポリシー担当がポリシーの浸透と浸透状況の確認に集中することができる環境を整えます。</p> <p>管理職が各職員の業務に必要な時間を割り出し、事務作業を行う時間を適切に振り分けることを仕組化します。そのためにも、過剰に職員が多い時間がないかなど、時間の無駄を把握するところから始めていきます。</p>
<p>支援の質の向上</p>	<p>保護者より「幼稚園と違いを感じない」というような声をいただいており、単なる預かり場所という印象を持たれてしまっている状況です。療育的になどどのような狙いをもって日々の支援を行っているのかを考え、取り組み状況を保護者に周知する仕組みが必要と考えています。</p> <p>また、支援記録を記入する際や、送迎時に口頭で引き継ぎを行う際などには「目標に対して本日の様子はどうだったのか」「どのような課題(または成長)が見られたのか」など、個別支援計画と照らし合わせながら説明するようにしていきます。</p>	<p>個別療育管理シートを職員間で共有し、課題に沿った支援を一貫性をもって実施します。支援方針が児童の達成目標や課題に対してずれないように、共有会は定期的の実施して意見交換をしていきます。</p> <p>また、集団療育の利用者には、個別支援計画に沿った形で支援記録の記入や口頭での引き継ぎを行います。</p>